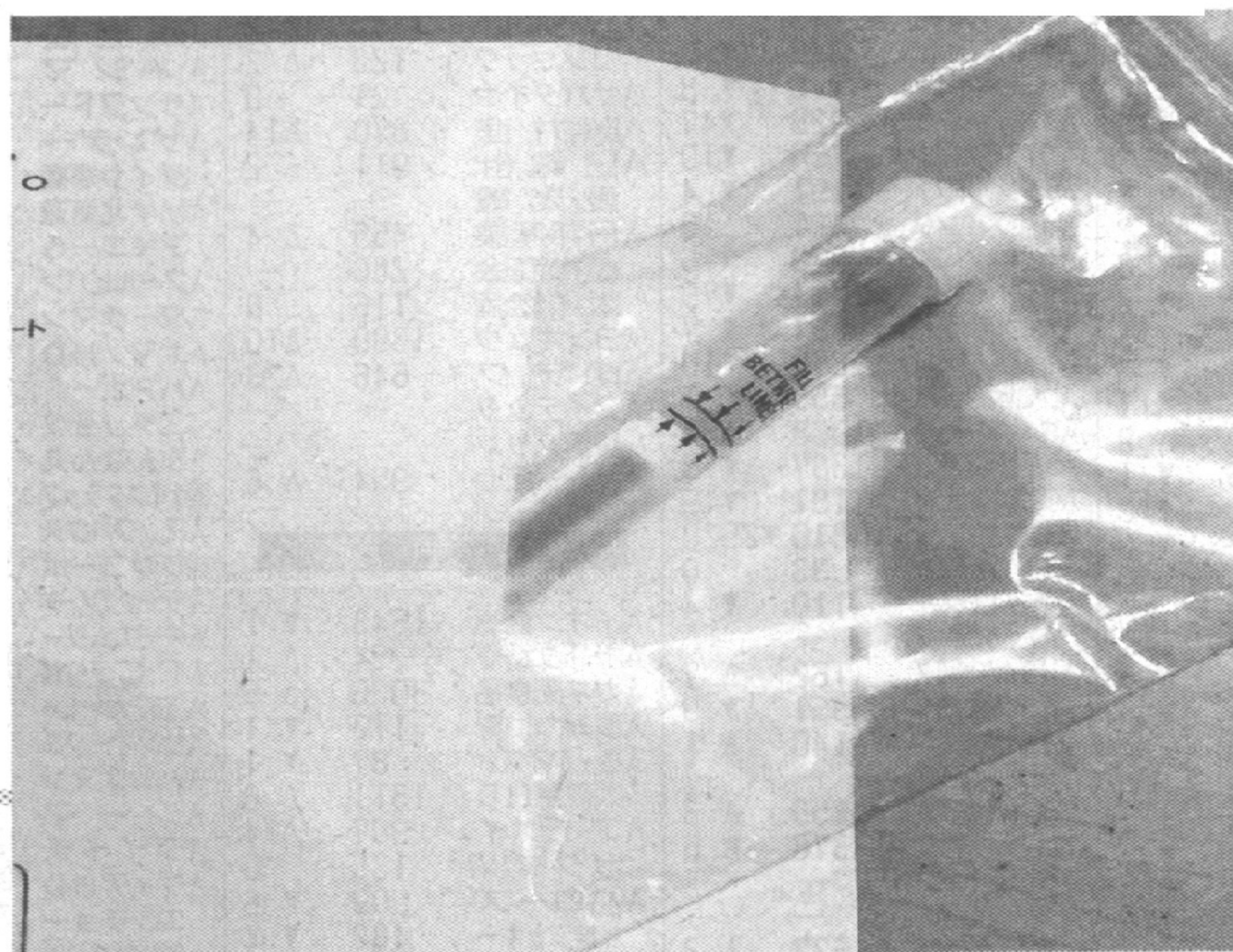


遺伝子検査「国際認証を」



遺伝子検査はプラスチック容器に唾液を入れて送るだけで結果が出る（一部修整しています）

経産省は報告書案を月内にも発表する。研究会を4月以降も続け、早ければ2014年末にも、業界の信頼性の向上と市場育成に向けたルールをまとめる。

報告書案は遺伝子検査ビジネスの課題として①遺伝子解析の質②科学的な根拠を確保しているかなど判定の質③検査結果などの利用者の情報提供の方法――を挙げ、それぞれ検討した。

「解析の質については、事業者が将来的に国際認証

経産省研究会

質確保へ報告書案

科学的根拠提示も提言

病気にかかる危険性などを判定する「遺伝子検査ビジネス」の適正化に向けて、経産省の研究会がまとめる報告書案が判明した。検査の質を確保するため、国際標準化機構（ISO）など国際認証の取得を求めることや、判定結果の科学的な根拠を利用者に明示することなどを提言として盛り込んだ。

経産省は報告書案を月内にも発表する。研究会を4月以降も続け、早ければ2014年末にも、業界の信頼性の向上と市場育成に向けたルールをまとめる。

検査に臨めるよう、事業者が検査前に、どのような科学的根拠を使っているかや、病気のリスクの予測に根拠があることなどを「誠実に示すことが重要」とし、業者が守るべきルールに一定の方向性を打ち出した。

ただ、「判定の質」については、意見がまとまらなかった。①第三者機関が業

遺伝子検査ビジネスに関する調査報告書案の要旨

- ▽遺伝子解析の質を高めるため、業者は国際認証の取得を目指すべきだ。市場の育成を考慮し、導入のタイミングには配慮する
- ▽科学的根拠を利用者に誠実に開示することが重要
- ▽検査の妥当性の評価を巡っては、第三者機関が評価する仕組みが必要という意見と、業者の自主的な取り組みに任せるべきだとの意見に分かれた
- ▽業者は利用者に検査の影響などを事前に説明する責任を負う

者を評価する仕組みを採り入れる②第三者による評価制度は資金などの面で導入が難しく、業者の自主的な取り組みに任せる――の両論併記にとどめた。

国際認証の取得について、事業者の経済的な負担も、事業者の経済的な負担

な意見に分かれている。報告書は、黎明期にある業界の適正化に向けた第一歩となる。経産省は年内にルールをまとめて、業界の信頼性を高め、成長産業として育てたい考えだ。ただ、業界の育成と消費者保護の間で、どうバランスをとるのか、課題も多い。

* 記者が体験

2社で相当異なる結果

遺伝子検査の判定結果はここまで信用できるのか。国内2社の遺伝子検査を実際に受けてみた。

（小林泰明）

遺伝子検査2社の検査結果を比べると…

遺伝子検査大手A社は約3万円の検査料。心筋梗塞や脳梗塞などの重い病気も含め、37項目のリスクや体質を判定することをつたう。一方、国内ベンチャーB社の検査料は約4万円。糖尿病や肺がんなどの病気のほか、寿命の傾向、忍耐力といった個人の体質まで、約200の判定項目を掲げる。

両社とも、試験管のようなプラスチック容器が郵送持つ人のリスクは平均の0

病気などのリスクや体質	A社	B社
加齢黄斑変性	3.5倍	0.25倍
リウマチ	1.68倍	1.5倍
円形脱毛症	1.53倍	低い
ぜんそくなど	1.31倍	0.79倍
脳卒中(脳梗塞)	1.13倍	1倍
痛みの感じやすさ	やや感じやすい	感じやすい
髪のカール	カールしやすい	わずかにカール

数字は、平均的な人と比べて、その病気にかかるリスクが何倍あるかを示す。1倍は平均並み

唾液を送るだけ

結果が記載されていた。A社は二つの遺伝子を、B社は四つの遺伝子を調べて、結論づけたようだ。B社はデータの信頼性を5段階で評価し、今回の結果は最も評価が高いとされた。B社の方が正しい気がするが、本当のところはよく分からない。

結局、両社の判定で、リスクがあることで一致したのは「リウマチ」だけだった。結果を比べてみて、まだ発展途上だと感じた。しかし、自分が想像していなかったようなリスクの一端を知ることができる。検査の限界を知り、妄信しないことが、現段階で遺伝子検査とうまく付き合うコツかもしれない。

・25倍です」と、全く逆の結果が記載されていた。